



幼児の  
國際教育

# 『八にんのこども』

上 澤 謙 二

まえがき

現在、世界を挙げて、真剣に考えられている問題の一つは「國際平和」ということでしょう。殊に非武装國家として新しく出発したわが國に取つては、この問題は一層痛切なものがあり、全國民がこれに徹底しなければなりません。「全國民」という中には、勿論幼児も含まれますが、頑固な彼等に、果して「平和」とか「國際」とかいう抽象的な事柄が解るでしょうか。或は「解らないときめて」打棄てておくべきでしょうか。又は「どうかして解らせたい」と希つて、努力すべきでしょうか。あらゆる教育がその可能な限り、早くから始められるのがよいとするならば、この方面の教育も、出来れば幼児期から施されるのが望ましいことは、いうまでもありません。

本篇は、この立場に立つて起稿されたものですが、「平

和」とか「國際」とかいうことを、正面から提示するのでなく、幼児の興味と理解の範囲にある「仲よし」と「各國のことば」という題目を取上げて「平和」を仲よしに寓し、「國際」を各國のことばに托して、象徴的、暗示的、間接的な方法によつて、その目的を達しようとするものであります。平和とは、これを狭くし、日常生活的にすれば「仲よし」ということになり、國際的とは、これを最も身近にし、具體的にすれば「それ／＼の國語との接触」ということになりはしないでしょうか。

そこで、仲よくするには、互に接することが先決条件であります。接するは識るの初め、識るは親しむの初めだからです。然し幼児は、自分から直接外国人に接することはできません。又たとえ遇つたにしても、見知らぬ人の前では、気味わるがるか、恐ろしがるかが普通で、親しんだり近しくしたりすることは、到底困難です。この不可能と不

都合とを除くものが即ち絵です。絵ならば、いつでもどこでも見られますし、けつして気味わるがつたり、恐ろしがつたりすることはありません。おちついで観察もできますし、度々繰返して見るうちに、なじみにもなつてくるのです。

幼児時代からこうして他国の人物又は風俗になじんだ子供が、大きくなると共に、外国人に親しみを感ずるようになるのは当然でしょう。

更に幼児期は言語收得期で、新しい言葉に対して非常な興味を持っています。面白がつて繰返しているうちに、自然におぼえてしまうのですが、この場合、この特徴を利用したわけがあります。

こゝに挙げられた言葉は、幼児に取つてはいずれも初めての外国語ですが、それは謂わば、彼等が始終口にしている日常語の変形ですから、けつして縁遠いものでありません。むしろその簡単なことゝ、珍しいことゝは、大いに彼等の興味を刺戟して、きつと欲び迎えられるでしょう。互にいゝ合つて、新語をおぼえたことを誇つたり、変つた発音を笑つたりして面白がるでしょう。そうしているうちに、自然に外国語に対する親しみを養われるのですが、幼時この経験が、將來の外国語の習得の上に、延いては國際的理解の上に、いかに深い影響を及ぼすかは、思い半ば

に過ぎるものがあるでしょう。國際親善の最大の利器の一つが、外国語の熟達という点にあることは改めて申すまでもありますまい。

こう考えてくると、他愛もない一場のなぐさみのような、この簡単な言葉の繰返しは、國際人教育の正しい方途を進むもの、世界親善の固い基礎を据えるものといつて、けつして過言ではないと思います。

子供たちが、ここに掲げた言葉をおぼえこんでしまつたら、次々と適当な言葉を選んで、このような方法でやつていきましよう。幼児相互の対話のようにしても面白いでしょう。大勢ならば、一語一人でなく、幾人かを一組にして、七組か八組に分けてやつてもよいでしょう。

### 八にんのこども

八にんの こどもは よいこどもです。

八にんの こどもは 日本の こども、アメリカの こども、イギリスの こども、ちゆうごくの こども、ロシアの こども、フランスの こども、ドイツの こども、イタリーの こどもです。

八にんの こどもは なかよしこどもです。

一、おは よう

あさです、あさはやくです。

八にんの こどもが みちの かどで いきあいました。

日本の こどもが いいました。『おはよう』

アメリカと イギリスの こどもが いりました。『グ

ッド モーニング』

ちゆうごくの こどもが いいました。『ツオア アン』

ロシアの こどもが いりました。『ドープロエ ウーツ

ロー』

フランスの こどもが いいました。『ボン ジニール』

ドイツの こどもが いりました。『グーテン モルゲ

ン』

イタリーの こどもが いいました。『ブオン チョル

ノー』

そうして みんな おててを つないで いきました。

二、 は い

名を よばれます、めい／＼の名を よばれます。

八にんの こどもは はつきりと よい ごへんじをし

ました。

日本の こどもが いいました。『は』

アメリカと イギリスの こどもが いりました。『イ

ちゆうごくの こどもが いいました。『スー』

ロシアの こどもが いいました。『ダー』

フランスの こどもが いりました。『ウー』

ドイツの こどもが いりました。『ヤー』

イタリーの こどもが いりました。『セイ』

そうして みんな よばれたほおえ そろつていきまし

た。

三、 い い え

かえりみちです。さんばに いつた かえりみちです。

八にんの こどもに、せんせい ききました。

『くたびれましたか、やすみますか』

日本の こどもが いりました。『い』

アメリカと イギリスの こどもが いりました。『ノ

ーウ』

ちゆうごくの こどもが いりました。『ブー』

ロシアの こどもが いりました。『ニエー』

フランスの こどもが いりました。『フン』

ドイツの こどもが いりました。『ナイン』

イタリーの こどもが いりました。『ノー』

そうして みんな げんきに あるいて いきました。

四 一 二 三

きようそうです、かける きようそうです。

八にんの こどもが スタートへ ならびました。

日本の こどもが いゝました。『二三三！』

アメリカと イギリスの こどもが いゝました。『ワン  
トウー スリー！』

ちゆうごくの こどもが いゝました。『イー アル  
サン！』

ロシアの こどもが いゝました。『アデン ドウワ  
ー トウリー！』

フランスの こどもが いゝました。『アン ドウ トウ  
ロワ！』

ドイツの こどもが いゝました。『アイン ツワイ ド  
ウライ！』

イタリアの こどもが いゝました。『ウーノ ドウエ  
トウレ！』

そうして みんな 一どに ドツと かけだしました。

五、 ありがとう

ごほんです、おもしろい ごほんです。

八にんの こどもに、おじさんが くださいました。

日本の こどもが いゝました。『ありがとう』

アメリカと イギリスの こどもが いゝました。『サン  
キュー！』

ちゆうごくの こどもが いゝました『シエ シエ』

ロシアの こどもが いゝました。『スパセイーボ』

フランスの こどもが いゝました。『メルシー』

ドイツの こどもが いゝました。『ダンケ』

イタリアの こどもが いゝました。『グラッティエ』

そうして みんなにこゝしなから ひらいてみました。

## 六、ごめんなさい

よろけました、いしに つまずいて よろ／＼と よろ  
けました。

八にんの こどもが よろけて、じゆん／＼に、ボカ／＼

と あたまと あたまを ぶつけました。

日本の こどもが いゝました。『ごめんなさい』

アメリカと イギリスの こどもが いゝました。『パー  
ドンミー』

ちゆうごくの こどもが いゝました。『トイブチイ』

ロシアの こどもが いゝました。『イズヴィニイチエ』

フランスの こどもが いゝました。『バルドン』

ドイツの こどもが いゝました。『フェルツァイウンダ』

イタリアの こどもが いゝました。『ミスクーピ』

そうして みんな あたまを なげながら アツ、ハツ

ハー とわらいました。

(四五頁下段へ)

以上の測定に際し、特に月々の体重の測定に際しては、前に測つた値と比較して、「五郎ちゃんが増したわね」「三津江ちゃんと同じね、ごはん沢山食べた?」「一郎ちゃんも減つたのではないの、あれが好きこれが嫌いって言つたのではない?」などと、子供に知らせる様にしたいと思ひます。或いは先生方がよくなさつてゐる様に表又はグラフに作つて、それで示すこともよいでしょう。体重の増減については、両親は非常に注意を拂うものでありますから、増さないもの、減つたものについては、両親と共に、子供の生活・栄養・病氣などについて検討したいと思ひます。

即ち病氣によつて健康を害したときは、身体の生活機能は衰えますし、殊に消化器の病氣をした時は、水分の脱出と共に消化吸収も妨げられますから、体重の減少は著しく起ります。又、結核・寄生虫など著しい症状を表わさない病氣のとき、唯一つの症状として、相当食べてゐるのだが瘦せる、ということがありますから、レントゲンを撮つたり、検便をしたりして、よく診てもらふことが大切であります。

第二に栄養の取り方が不足したり、均衡がとれないとき、即ち食慾不振・むら食・偏食であつたりするときには、体重は思ひしく増していきません。

近頃、幼稚園の子供の母親に「食慾がない」「むら食で困る」「偏食で困る」という訴えを持つた者が非常に多く、私が幼稚園の先生方に調べていたところは、約三分の一に及んでいますので、之は非常に困つたことだ、と思つてい

ます。その可成多くの原因が、不規則な間食に負つてゐる様で、こゝ一二年急にいろいろな菓子類が出て、子供を甘やかす材料になつてゐるのは、何とかして是正しなければならぬことであると思ひます。第三に疲労であります。幼稚園・保育所でもよく遊ぶ、帰つてから年上の兄さんたちに張り廻されて体力以上に遊び、夕飯は食べるか、食べぬうちに睡つてしまふ、という様な子供もおりますので、その様なことが続くと次第に疲労が重なり、体重の増し方も悪くなるのであります。

月々の体重測定は、この様なよい指導標となりますから、是非どこの幼稚園・保育所でも試みていたゞきたいことでもあります。(以下次號)

(二七頁より)

七、さようなら

ゆうがたです。しずかなゆうがたです。

八にんの こどもが あそぶのを やめてたちあがりました。

日本の こどもが いゝました。「さようなら」

アメリカトイギリスのこどもがいゝました。「グット バイ」

ちゆうごくの こどもがいゝました。「ツァイチェン」

ロシアの こどもがいゝました。「ドスピターシャー」

フランスの こどもがいゝました。「アデュウ」

ドイツの こどもがいゝました。「アウフ ウィダーゼー」

イタリーの こどもがいゝました。「アリベベルチ」

そうして みんな おてゝを ふりく わかれていきました